

■主な調査結果

①小学生から中学生にかけて、時間の使い方が大きく変化する。

表 1 生活時間(学年別) (速報版 p.4~5、p.12) (分)

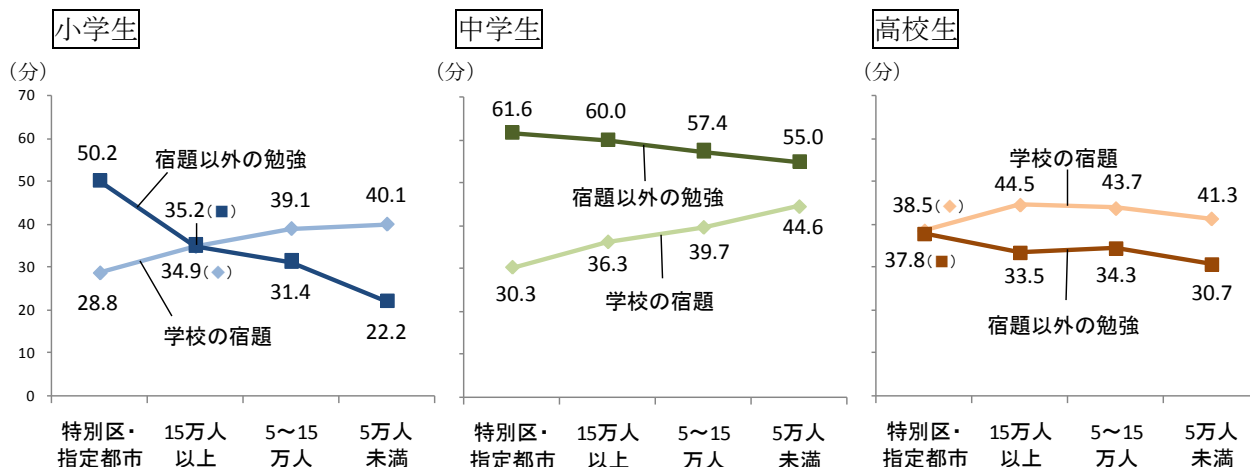
	睡眠	学習	外遊び・スポーツ	友だちと過ごす	テレビ・DVD	携帯電話	部活動
全体	453	84	26	139	106	30	75
小5生	516	67	45	106	103	2	-
小6生	41分減少 501	75	22分減少 44	30分増加 118	112	5	91分増加 -
中1生	460	79	22	148	113	17	91
中2生	442	55分増加 78	18	152	117	28	67分減少 93
中3生	420	58分減少 133	18	145	104	33分増加 38	61分増加 26
高1生	399	75	12	160	94	71	87
高2生	392	78	13	163	96	76	80

* 数値は1日あたりの平均時間(分)。白抜き文字は最大値を示す。変化については顕著なものを示した。

* 平均時間の算出方法は「速報版」を参照。

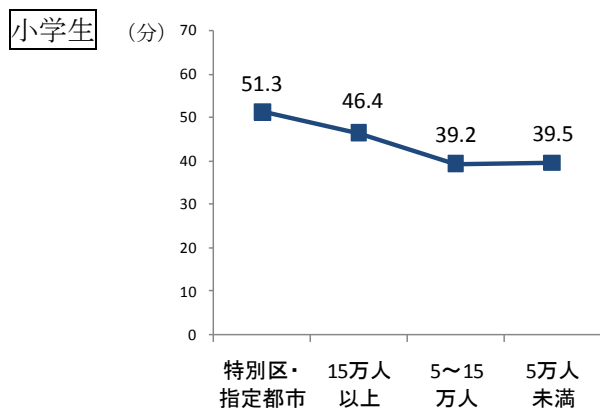
②都市部では「学校の宿題」が短く、「宿題以外の勉強」が長い(小・中学生)。

図 1 学習時間(人口規模別) (速報版 p.8~9)



③都市部では「外遊び・スポーツの時間」が長い(小学生)。

図2 外遊び・スポーツの時間(人口規模別)(速報版 p.4)



④半数以上は「忙しい」と感じているが、8割は「毎日が楽しい」を肯定。

図3 忙しい(速報版 p.21)

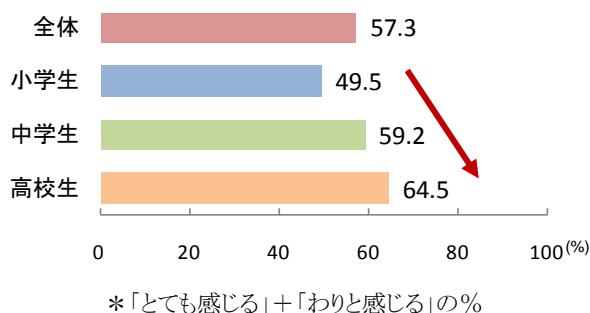
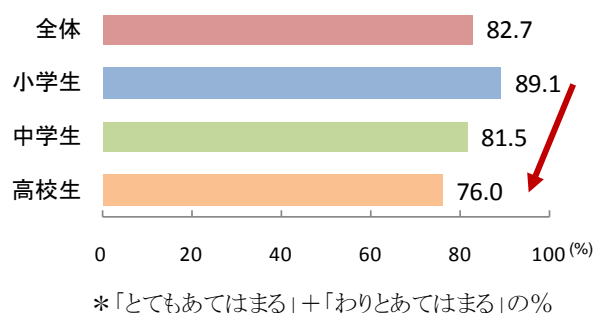


図4 毎日が楽しい(速報版 p.19)



⑤6割が「時間をむだに使っている」と感じている。

図5 時間をむだに使っていると感じる(速報版 p.19)

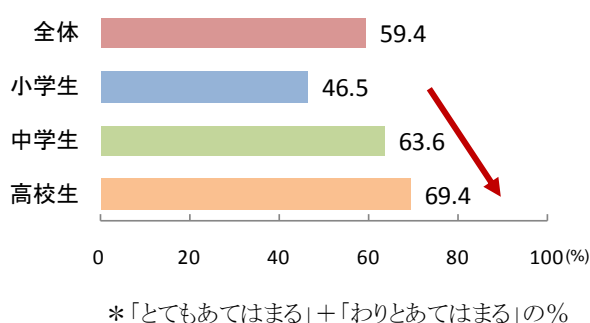
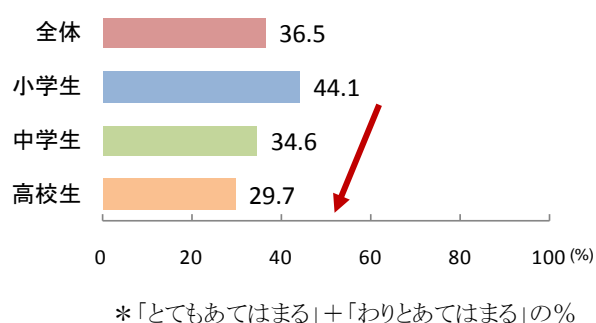
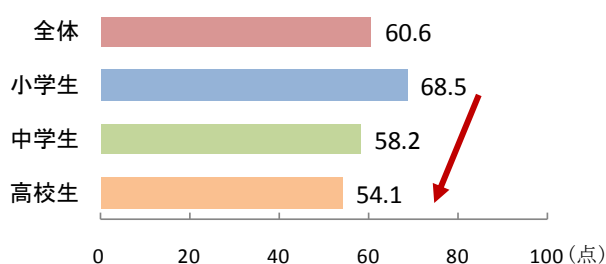


図6 計画的に勉強する(速報版 p.19)



⑥「時間の使い方」に対する得点(自己評価)の平均は60.6点。

図7 時間の使い方の点数(自己評価の平均)(速報版 p.20)



*「0点」から「100点」までの自己評価の回答の平均値を算出した。

⑦「時間の使い方」に対する自己評価が低い子は心身の疲れを感じている。

表2 生活時間と心身の疲れ(時間得点別) (速報版未掲載)

	生活時間								心身の疲れや楽しさ				
	睡眠	ぼーっとする	学習	テレビ・DVD	ゲーム	携帯電話	部活動	一人ですごす	いろいろする	やる気が起きない	忙しい	毎日が楽しい	
中学生合計	441	26	96	111	35	27	71	91	58.8	61.7	59.2	81.5	
自己評価	低群(0点~40点)	432	36	89	120	45	31	63	114	68.8	82.6	54.6	66.1
	中群(50点~60点)	439	27	97	115	34	30	68	95	62.2	67.2	57.0	81.6
	高群(70点~100点)	447	18	100	103	30	23	77	74	49.8	45.3	63.6	89.7
「高群-低群」の差	16	-18	11	-16	-14	-8	14	-41	-19.0	-37.3	9.0	23.6	
有意差(検定)	***	***	**	***	***	**	***	***	***	***	***	***	

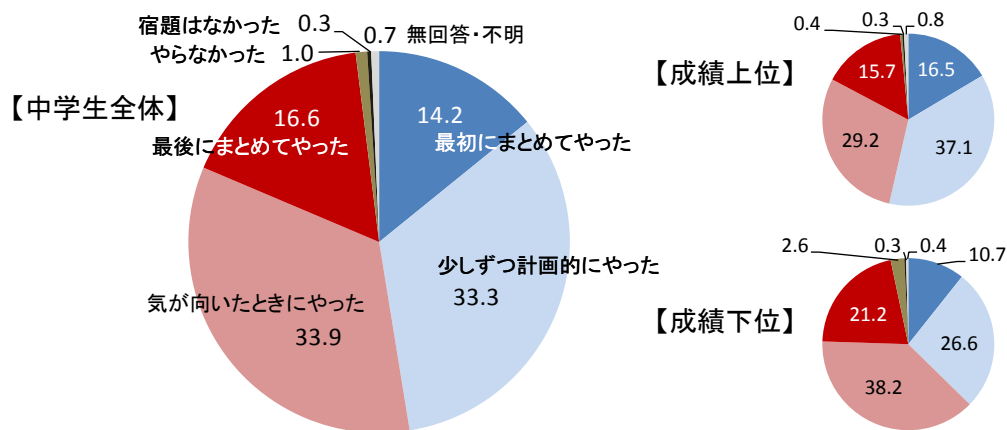
*生活時間の単位は「分」、心身の疲れは「とても感じる」と「わりと感じる」、楽しさは「とてもあてはまる」と「わりとあてはまる」の合計比率(%)。

*赤く囲んだ部分は、低群・中群・高群を比較したときの最大値。

*有意差について、「***」は危険率0.1%未満の水準で有意、「**」は危険率1%未満の水準で有意であることを示す。

補足データ①:夏休みの宿題の取り組み方と成績には関連がある。

図8 夏休みの宿題の取り組み方 (速報版未掲載)

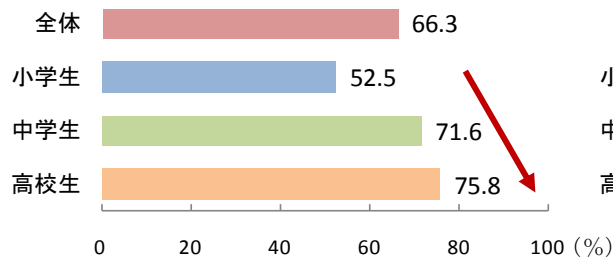


*「成績上位」はクラスでの成績に対する質問に「上のほう」「やや上のほう」と回答した者、「成績下位」は「下のほう」「やや下のほう」と回答した者。「真ん中くらい」と「無回答・不明」の者は省略した。

夏休みの宿題の取り組み方(中学生)についてたずねたところ、成績上位層は「最初にまとめてやった」「少しずつ計画的にやった」が多く、成績下位層は「気が向いたときにやった」「最後にまとめてやった」が多い。このような傾向は、小学生や高校生にもみられる。夏休みの過ごし方と成績には関連がある。

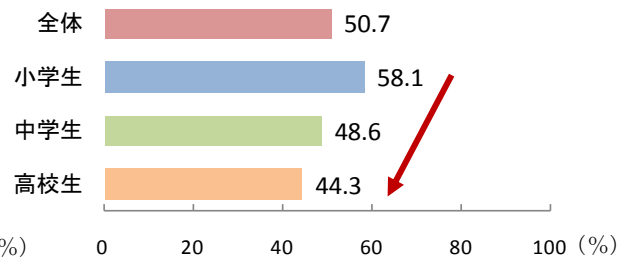
補足データ②: 将来展望は明るくない

図9 日本の社会「悪くなる」(速報版 p.23)



* 「とても悪くなる」 + 「まあ悪くなる」の%

図10 世の中を良くするためにがんばる(速報版 p.22)



* 「とてもあてはまる」 + 「わりとあてはまる」の%

これからの日本の社会が良くなると思うか、悪くなると思うかをたずねたところ、3人に2人が「悪くなる」と回答した。しかし、「これからの世の中を良くするためにがんばりたい」を肯定したのは半数にとどまる。

<ベネッセ教育研究開発センターの活動/WEBサイトについて>

ベネッセ教育研究開発センターでは、今後も、時代の変化に即したテーマで、子どもや教育に関する、調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。ベネッセ教育研究開発センターのWEBサイト(<http://benesse.jp/berd/>)では、今回の調査データのほかにも、さまざまな独自調査のデータ・報告書を公開しています。